

ツクルバ 2025年7月期 第2四半期決算を発表
売上高と売上総利益はともに過去最高値を更新、営業利益が前年同期比で黒字転換

当社は、本日2025年3月14日に、2025年7月期 第2四半期決算を発表しました。
詳細につきましては、以下のプレスリリースをご参照ください。

＊

■2025年7月期 第2四半期連結業績ハイライト

カウカモ事業の規模拡大により、売上高は1,837百万円（前年同期比+106%）、売上総利益は852百万円（前年同期比+43%）と、それぞれ過去最高値を更新しました。

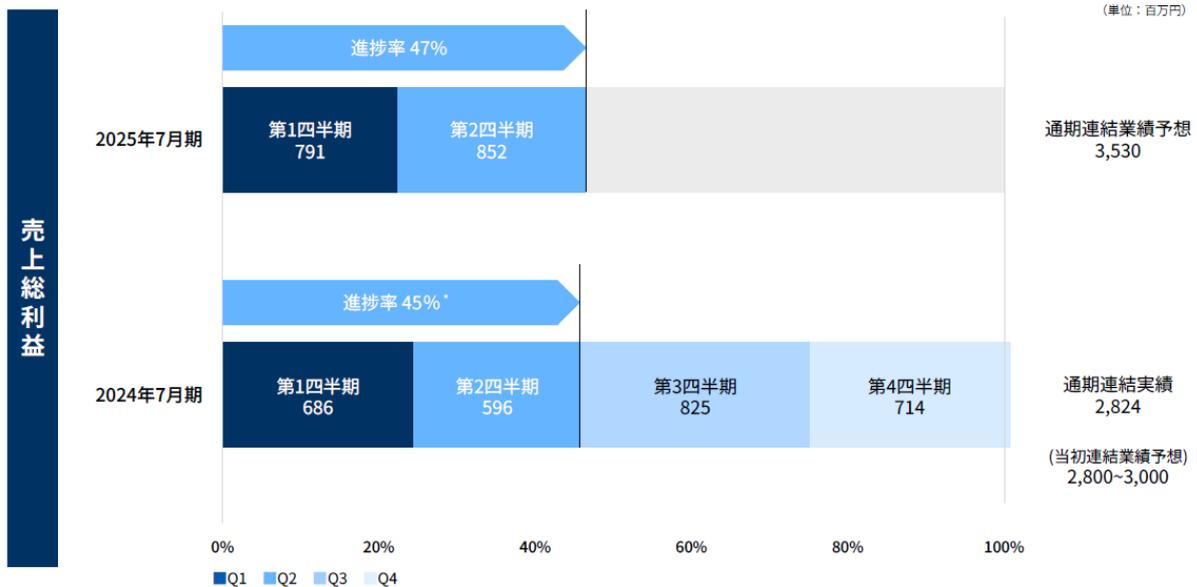
営業利益は52百万円（前年同期比+64百万円）となりました。当期中の事業規模拡大に向けた人件費や広告費の先行支出を行いながら、前年同期比で黒字転換を実現しました。

2025年7月期 第2四半期連結業績 (2024年11月～2025年1月)	売上高・売上総利益は過去最高値を更新。先行支出を行いつつ、前年同期比で黒字転換	
	売上高*	1,837 百万円 (前年同期比 +106%)
	売上総利益*	852 百万円 (前年同期比 +43%)
	営業利益	52 百万円 (前年同期比 +64百万円)
.....		
2025年7月期 通期連結業績予想	想定通りの上半期進捗を受け、通期連結業績予想の達成を見込む	
	売上高	8,000 百万円 (前期比 +46%)
	売上総利益	3,530 百万円 (前期比 +25%)
	営業利益	230 百万円 (前期比 +48%)

(注) 売上高と売上総利益の乖離は、自社企画商品の販売増に起因

■2025年7月期 通期連結業績予想に対する進捗率

当第2四半期において、売上総利益の通期連結業績予想に対する進捗は順調です。当期中の事業規模拡大に向けた支出については、期初想定通りの費用及び効果で推移しており、引き続き通期連結業績予想の達成を見込みます。



* 2023年11月1日付の不動産企画デザイン事業の譲渡を踏まえ、カウカモ事業のみの進捗率を表記。なお、進捗率は当初連結業績予想の下限値を参照

■参考：コーポレートガバナンス及び経営機能の強化について

当社は、取締役会の任意の諮問機関として、社外取締役を主要な構成員とする指名・報酬委員会を設置しました。これは、取締役の指名・報酬などに係る取締役会の機能の独立性・客観性を強化し、コーポレートガバナンスの更なる充実を図ることを目的としたものです。

また、事業成長の加速に向けた経営体制の強化を目的に、指名・報酬委員会の審議を経て、新任取締役候補者2名を選任しました。両名が早期に取締役として能力を発揮することが株主価値の最大化に資すると判断し、その選任に関して、2025年5月7日開催予定の臨時株主総会に上程する予定です。

指名・報酬委員会の概要

目的	取締役の指名、報酬などに係る取締役会の機能の独立性・客観性を強化し、コーポレートガバナンスの更なる充実を図ることを目的とする。
役割	取締役会の諮問に応じて以下の事項について審議し、取締役会に対して答申を行う。 (1) 取締役の選任・解任に関する事項 (2) 取締役の指名方針および手続等に関する事項 (3) 代表取締役及び役付取締役の選定・解職に関する事項 (4) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬体系・方針に関する事項 (5) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等に関する事項 (6) 取締役の報酬限度額に関する事項 (7) 代表取締役の後継者計画に関する事項 (8) その他取締役・執行役員等の指名・報酬に関する重要事項で、取締役会が必要と認めた事項
構成	取締役会の決議によって選定された3名以上の委員で構成し、委員の過半数を社外取締役とする。 指名・報酬委員会設置時における委員は以下の通り ・ 社外取締役監査等委員 小林 賢治（委員長） ・ 社外取締役 福島 良典 ・ 代表取締役 村上 浩輝

新任取締役候補者2名の経歴



竹内 真（たけうち しん）

富士ソフトABC株式会社（現富士ソフト株式会社）を経て、創業準備期の株式会社ビズリーチに参画し、取締役CTOに就任。2020年2月ビジョナル株式会社取締役CTOに就任。2021年10月当社社外取締役に就任



野村 駿太郎（のむら しゅんたろう）

株式会社コスモスイニシアのリテール仲介・中古買取再販部門における最年少管理職及び同部門における仕入・販売領域の責任者を経て、2023年7月当社入社。2024年2月当社執行役員に就任し、2025年2月当社上級執行役員CROに就任

■詳細のご案内

詳細は、当社IRページ掲載の資料をご確認ください。

<https://tsukuruba.com/ir>